

○アパート・前（夕方）

カラス「カーカーカー」

足音「タンタンタン」

夏也「ふう……」

夏也のN「俺の名は傘蕪木夏也18歳。今年からこの京都の大学に入學が決まって、一足先にアパートを借りた」

○夏也の部屋（夕方）

ドアの開閉音「ガチャツ、キイ、バタン」

夏也のN「6畳一間、家賃は1万円。両親は絶対曰くつきだからやめとけていったけど、安いから俺はここに決めた」

コンビニ袋を置く音「ガサツ」

夏也のN「で、やっぱりその曰くはあつたわけだが……」

信長「おう夏也！ おかえり！」

夏也のN「それがまさか……」

信長「なあなあ、借りてきてくれたか？」

夏也「ああ……」

コンビニ袋を漁る音「ガサガサ」

信長「おお！ 連続時代歴史ドラマ

『信長奮闘記』DVD全5巻!!

さっそくみようぜ！」

夏也のN「織田信長の幽霊が住み着

く部屋だったなんて……」

信長「あ、くそ！ OPが差し変わ

ってる！ 気に入ってたのに！

わかってないな、本人より歌がど

うかが大事なのに！」

○同・回想（深夜）

犬の鳴き声「アオーン、キャンキャンキャン」

テレビ「はい、見てくださいこの写真。なんとこの肩のところにいる

はずのない聖徳太子の顔が……」

夏也「ふああ……」

夏也のN「越してきて、最初の夜だった」

信長「……めしや」

夏也「最近の心霊写真ってなんか綺麗で怖くないよなあ」

信長「うら……めしや光秀……」

テレビを消す音「ツピ」

夏也「んく……そろそろ寝るか」

信長「本能寺の恨み……忘れいでか

あ……」

歯磨きの音「シャカシャカ」

夏也「ガラガラガラ、ツペ」

信長「天下統一半ばにして……この

怨み……」

夏也「明日は……そうだ本棚買わないとな」

信長「織田信長の怒りを思い知れえ……」

夏也「通販って手もあるな、持ち運ぶの重いし……」

信長「……おい」

夏也「ま、まずは近くの店を見てからでも……」

信長「おいってば」

夏也「……お休み」

信長「こら、こつち観たろ今。見えてるよな？ 聞こえてるよな？ 寝るな!!」

夏也「……なに」

信長「そ、そんな露骨に嫌そうにされるって信長傷つくぞ。だって戦国武将だもん」

夏也「はあ……それで？」

信長「え」

夏也「誰？ 何？ 目的は？」

信長「う、うむ。こほん……えくわしが誰かわかるかのう？」

夏也「……織田信長」

信長「うむ！　そう、戦国3傑の1人！　最初の天下人！　武将人氣NO1！　織田上総乃介信長とはわしのことよ！」

夏也「そう……用は？」

信長「ねえ、驚かないの？」

夏也「散々自分で信長信長言ってたじゃない」

信長「じゃなくて、どうしてここに？　とか体が透けてる！　とか。幽霊だあ！　とかリアクションがあるじゃん？」

夏也「……幽霊なの？」

信長「いかにも！　だがそんじよそこらの地縛霊と一緒にしてもらっちゃあ困る！　怨霊じゃ！　天下を前に憎き逆臣明智光秀に討たれた憎しみは！　時如きでは癒されぬ！」

夏也「そう」

信長「憎い！ 憎いぞ！ 森羅万象
すべてが憎い！ この怨み晴ら
さでおくべきか！」

夏也「わかった」

キーボード音「カタカタカタ」

夏也「明智光秀の墓は……あれ？
3つもある……。まあ、どれかに
はいるんじゃない？ 覚えられ
る？ 場所」

信長「……だからさあ」

(回想終わり)

○元の夏也のアパート・一室(夜)

夏也のN「幽霊だろうと怨霊だろう
と俺にはどうでもよかった。害が
ないなら何もしない。たしかに害
はないけれど……」

テレビ「義元の首、討ち取つたりい
く!!」

信長「くうく!! も一度！」

夏也のN「信長は……うぜえ」

信長「ここじゃここ！ 義元の首を

掲げるこの艶姿！ たまらん！」

夏也「もういい？」

信長「何言ってる！ これから美濃

攻めじゃ！ しかしわしを演じ

てるこいつはちよつと老けすぎ

と思わんか？ キヤステイング

がなつとらん！ でもまあわし

が首を獲ったっていうのは良い

改変じゃ、こっちの方が格好いい

もんね」

夏也「本当にあんた信長か？」

信長「当り前じゃ！ もう700年

ほど現世を漂っておるんだぞ！

大概のことは知つとるわい」

夏也「いばるな」

信長「しかし一度に見てしまつては

楽しみがなくなるな……よし」

夏也「寝る？」

信長「仙骨無双やろう。もちろんわ
しでじゃ！」

夏也「勝手にしろもう」

信長「うくん、ハンサムう。お、洪
い声だなあ。この声優さんいいな
あ」

夏也のN「耳栓買ってこよう」

○スーパー

客たち「ガヤガヤ」

店員「タイムセールです」

夏也のN「信長はどこにでもついて
きた。地縛霊とはなんだったのか」

信長「この塩辛おいしそうだぞ夏也」

夏也「食べられないだろ」

信長「そこは秀囲気だ秀囲気。お、
こつちもうまそ！」

夏也「塩辛好きじゃないんだ」

信長「しょっぱくてうまいのに、変
わったやつだな。あ、イカ墨造り

だって！」

夏也のN「こつちも信長が塩辛好き
なんてしらなかったよ」

○道

足音「コツコツコツ」

夏也のN「はあ、ただの買い物なの
に疲れた……」

信長「なあなあ？ わしだれだと思
う？」

少女「え？ 知らなくい」

信長「ヒント！ 桶狭間の戦い！」

少女「おけはざま？」

信長「知らないのか？ 不勉強な奴
だなもう」

夏也「なにやってんだよ」

信長「知名度チェック」

夏也「止めろよ。てかその女の子ど
うして信長が……あ、その花……」

少女「車が来てねー、それからふわ

ふわしてるんだー」

信長「浮遊霊だな」

夏也のN「こんな小さいのに……可

哀想に……」

夏也「ってなんで俺に見えてるんだ？」

信長「わしが見えてるんだからずつとそうなんじゃないか？」

夏也「いや今までそんなこと一度も……」

夏也のN「こいつの影響か？ 霊媒体質なんて冗談じゃねえぞ」

少女「おうちに帰りたいんだけどねーいけないのー」

信長「慣れだ慣れ。慣れればこの織田信長のように変幻自在だぞく

よくよするなって」

夏也のN「信長……」

少女「ママに会える？」

信長「おう、けどな、信長と約束だ

ぞ」

少女「約束？」

信長「ママに会うときは、必ず信長に一声かけること。指きりじゃ」

少女「指切り！」

夏也「……っふ」

○アパート・夏也の部屋（夜）

ゲーム「アイヤー、セイヤー」

信長「え、今日はまだ、やっていいのか？」

夏也「ああ」

信長「やつほー！　なんだか知らんけど、外伝までいっちらうぞ仙骨

無双！」

夏也のN「悪い奴では……ないんだよなあ」

○雑貨屋・前

夏也のN「それから数日後」

店員「ありがとうございますー」
夏也「ふう、気に入ったのがないな
あ本棚……どうしよっか？」

○アパート・夏也の部屋

夏也「ただいま」

信長「夏也あ！」

夏也「な、なんだよ？」

信長「自伝を書くぞ！」

夏也「……は？」

信長「自伝じゃ自伝！」

テレビ「はい、それでは今週のこの
一冊は、あの有名戦国武将石田三
成を自伝という形で描いた異色
の一冊、『茶坊主の告解』を紹
介します」

夏也のN「あちゃあ……」

信長「わしも書く！」

夏也「そ、そうか」

信長「つーわけで原稿用紙！」

夏也「は？」

信長「買ってきて！」

夏也「い、今から？」

信長「ほかに誰がいるんだ？」

夏也「信長の本ならいっばいあるだ
ろ……」

信長「けど自伝はない！」

夏也のN「当たり前だろ……」

信長「あんな禿ネズミの部下がある
のにずるい！ わしは常にトッ
プを走りたい！」

夏也「あれはそういう設定で書いた
だけで別に石田三成が書いたわ
けじゃ……」

信長「いやなの〜！ 書くの〜!!
書いて書いて書いて〜!!」

SE「ガタガタガタ」

夏也「わ、わかったからわかったか
ら！ ポルターガイスト起こす
な！」

○同（翌朝）

ツバメ「ちゅんちゅん」

夏也「も、もうだめ……」

信長「こらー！　まだわしが生まれ
たところだぞ！　ちゃんと推敲
しろ！」

夏也「無茶苦茶だよ……俺こんなこ
としたことないのに……」

信長「なんだそんなの！　わしだつ
て樂市樂座に鉄砲！　初めてい
ろいろやっってるんだぞ！」

夏也「だから一緒にするなって……」

信長「ガッツだ！」

夏也「む……り……ねむい……」

信長「立て！　立つんだ夏也ー！！」

夏也「お前本当に戦国時代の人間か
よ……」

倒れる音「バタン」

夏也「ぐーぐー」

信長「起きろよー夏也ー」

○同・前（朝）

SE「ヒュオン」

信長「ちえ、だらしねえんだから。

戦国時代にゆとりなんていつて

たらずぐ死んじゃうんだぞ……

しょうがないのお」

○アパート・夏也の部屋（夕方）

カラス「カーカー」

夏也「ん……」

秀吉「ですからー」

信長「わしはー」

家康「こんな太ってないー」

利家「秀吉ー」

夏也「……ん？」

勝家「おお、お目覚めですか」

夏也「ぬおほ」

勝家「……そ、そんなに驚かなくて

も……私だって好きでこんな怖い顔になったわけじゃないのに……」

心拍音「ドキドキ」

夏也のN「の、信長と……猿っぽいやつとぽっちゃりしたやつ……俺と同じくらいの男と……目の前にいた山賊……？」

信長「ん？ おお、夏也ようやく起きたかお寝坊さんめ」

秀吉たち「はじめまして〜!!」

夏也「あ、あのえっと……」

信長「こいつらはな―」

秀吉「待ってくださいよ信長さま」

家康「当ててもらいましようよ。わかりますよ絶対」

信長「ちっちっち、いいかね君達。

わしは織田信長だがね、きみたちはその後追いでしかないのだよ？ 夏也は歴史青年でもない

し、わかるわけがないのじゃ」

秀吉「むっ、そこまで言われるなんて心外ですよ」

家康「幕府立てたのわたしなんですからね」

利家「秀吉く対戦しよ〜ぜ〜」

勝家「大体私は政治力だつてあつたのに皆脳筋扱いして。そんなのが信長さまに重用されますか？
ええ？ ぶつぶつ」

夏也のN「またややこしくなってきたな」

秀吉「夏也殿！」

夏也「うお、は、はい」

秀吉「おれたちが誰か、わかりますよね？」

家康「わかりますよね？」

夏也「う……」

夏也のN「間違えるとまた面倒そうだな……この猿っぽいのはまあ

……」

夏也「ひ、秀吉？ 豊臣秀吉？」

秀吉「うきー！ それみなさい信長様！」

信長「むうう」

家康「わたしは？」

夏也のN「消去法で……」

夏也「い、家康？」

家康「おお！ やっぱり徳川幕府は偉大だった！」

夏也のN「まあ、みたまんまだしな……そういやこいつら見た目どうなってるんだ？ 死んだときにしては若いし……考えたら負けか」

信長「じゃ、じゃあこいつはどうだ夏也！」

利家「わー」

夏也のN「あ、この馬鹿。スルーしようとしたのに」

信長「どうだほ」

利家「ちーっす」

夏也「え、えっと……」

夏也のN「だ、誰だろう？ 日本史

で信長の知り合い……」

夏也「あ、明智光秀……」

SE「パリーン」

沈黙。

秀吉「(ひそひそ声で)な、夏也殿」

夏也「(ひそひそ声で)な、なに？」

信長「……ちよっと散歩してくる」

夏也「あ、おい」

SE「ヒュウン」

秀吉「いけませんよ夏也殿。よりに

よって明智殿のことを」

夏也「ま、まずかった？」

家康「仇ですからねえ。何度か光秀

殿も謝りに来てるんですが信

長様も意地っ張りで」

秀吉「ま、寂しくなったら帰ってき

ますよ」

夏也のN「猫かよ……」

○同（夜）

ゲーム音「ジャキーン、ガコーン、

敵将、討ち取ったり」

秀吉「俺って格好いい！」

家康「なんでこう私はおっさんなん

でしょう？ 若いときの姿はす

ごく地味な外見だし……」

利家「慶次ってそんないいか？ 悪

ガキだよあいつ。俺の方が強いし」

勝家「すいませんねうるさくて」

夏也「い、いえ」

夏也のN「うくん、この顔で丁寧だ

とヤクザにしか見えない……」

信長「帰ったぞ〜!!」

秀吉「お帰りなさい信長様」

家康「お帰りなさい」

信長「あく少し遠出しちまったわい」

夏也のN「あくまで散歩のていなのか……」

信長「ほら、どけろ」

家康「あ、次はわたしですよ」

信長「何を！」

秀吉「信長様もうレベルマックスじゃないですか。ストーリー全クリしているし」

信長「うつけもの！ 最強武器がまだじゃ！」

家康「ずるいですよ、そんなの」

信長「うるさい！ わしの番じゃ〜！」

勝家「私はプレイアブルキャラですらない……」

利家「なんでまっぴっかり有名なんだ？ う〜ん……ま、いっか」

夏也「……うるせえなあ」

○コインランドリー

洗濯機 「ガタンガタン」

夏也 「洗濯機早く来ねえかなあ、コインランドリーも面倒くせえ」

秀吉 「夏也どの」

夏也 「うおおおおお」

SE 「ガシヤガシヤバターン」

秀吉 「そこまで驚かなくても」

夏也 「か、壁から抜け出るのはやめてくれ……」

秀吉 「実はご相談が」

夏也 「太閤日記13は買いません。

12があるでしょ」

秀吉 「そんなことじゃないですよ！」

SE 「ガタガタ」

夏也 「わかったからポルターガイスト

トを止める！ 止めて！」

秀吉 「あ、すみません」

夏也 「全く……それでなに？」

秀吉 「こほん、えくわたくしこと豊臣秀吉についてどんなイメージ

をお持ちでしょうか？」

夏也「太閤太閤、はい終わり」

秀吉「そんな邪険にしないでください

いよゝ！」

夏也「まわりつくな、怖い！」

秀吉「もつと真面目にですよ」

夏也「はあ……農民から天下統一し

たすごい人。あっぱれあっぱれ」

秀吉「そうでしょうそうですね。」

本来一国民の夏也殿がため口聞

いていい相手ではないのですぞ」

夏也のN「うぜえ」

秀吉「ですが！ そんなわたくしに

も不満があるのです！」

夏也「何だよ」

秀吉「晩年ですよ晩年」

夏也「あゝ」

秀吉「あのせいでわたしは途中まで

よくても最後は老害化すること

の代名詞に……よよよ」

夏也「でも事実だし」

秀吉「違いますぞ！」

夏也「うお」

秀吉「あれには重大な誤解があります！」

夏也「じゃあ身内ぶっ殺しまくった
り、朝鮮戦争したのは嘘なのかよ」

秀吉「……嘘……ではないですけど
その誇張があるかな〜って。なん
でもわたくしのせいにするのは
よくないんじゃないかな〜って

……」

夏也「……洗濯終わったな」

秀吉「なんとかかしてください夏也
殿！」

夏也「俺は歴史家じゃねえ！」

○アパート・夏也の部屋

SE「キイ」

夏也「まったたく……」

SE 「ドサッ」

家康 「夏也殿……」

夏也のN 「ゲッ、こいつもじやねえ

だろうな」

夏也 「な、なになかな？」

家康 「なんで私はこう不人気なんで

しょう？」

夏也のN 「うわあ……」

夏也 「べ、別に不人気じゃ……」

家康 「だって、大体腹黒狸おやじか

若いと完全にモブなのですよ」

信長 「ビジュアルの差じゃ。かつか

つか」

家康 「ううう！」

夏也 「余計なこと言うんじやねえ！」

家康 「私は頑張ったのにチビとか小

太りとか天ぷらの食べ過ぎで死

んだとか……幕府開いたんです

よ」

夏也 「そ、そうだよな。すごいよな」

○スーパー（夕方）

アナウンス「今日も明日も毎日セー
ル。赤字覚悟一直線で営業します」

夏也「どうも俺はなんか相談員にで
もなってるんじゃないか？」

勝家「顔が怖いのは仕方ないじゃな
いですか」

夏也「こいつはこいつで……」

勝家「それをあーだこーだ言っ
てよ
くないと思いますよ……ふう、す
っきりした。それじゃ」

夏也「……愚痴言ってるだけかよ」

○アパート・夏也の部屋（夕方）

SE「グツグツ」

夏也「自炊も面倒臭えなあ」

利家「なーなー、夏也」

夏也のN「来たよ」

夏也「あー、なに？」

利家「あのな、そのな」

夏也のN「こいつは子供っぽくて和むなあ」

利家「俺、秀吉好きなんだ」

夏也「うぐっ」

利家「けどあいつ男に興味ないんだよなあ前から。なあ、夏也、なんとかできない？」

夏也「できるか!!」

信長「なんだようるさいなあ」

秀吉「おお今日は鍋ですか夏也殿」

家康「天ぷらはいけませんよ」

勝家「夏也殿、少しいいですか？いや決して愚痴を聞いてもらいたい訳ではなくてですね」

夏也「あく!!」

○同・前

ホトトギス「ホーホケキヨ」

夏也のN「そんなこんなで一か月が

経った。喧しくてやたらと出費が増える日々だ」

○アパート・夏也の部屋・前

SE「ボタン」

夏也「あーうるせえな全く」

信長の声「(ドアを隔てて) 夏也！

どこにいくんじゃ！」

夏也「散歩だよ！ ったく……」

SE「コツコツコツ」

○アパート・前

夏也「ふう、あ、桜の花……」

夏也のN「こんないい天気なのに、

家には幽霊5人かあ……なんだかなあ」

光秀「あ、あのう……」

夏也「え？ う……」

夏也のN「電柱のそばからこっちを見てるのは幽霊……もしくはコ

スプレ好きな人のどっちかだ。着物姿で丁髷の奴なんてそうはいない……」

光秀「すいません、お伺いしたいんですけど」

夏也「な、なんすか？」

光秀「あなたのお部屋に、信長様いらっしゃいませんか？」

夏也のN「こいつも関係者かよ」

夏也「え、ええ、まあ」

光秀「やっぱり……」

夏也「あ、あの、どちらさん？」

光秀「……みつひで」

夏也「え？」

光秀「明智光秀です……」

○公園

子供たち「わーわー」

夏也「それでその……明智さん」

光秀「あ、光秀でお願いします」

ませんでした」

夏也のN「情緒不安定なんてレベル
じゃねえぞ」

光秀「きよ、今日はこれで……」

夏也「あ、ちよつと……」

○アパート・夏也の部屋

SE「ガチャ」

夏也「ただいま……」

勝家「お帰りなさい」

夏也「う」

勝家「そ、そんなにぎよつとしなく
ても……」

夏也「わ、悪い……」

信長「藤吉郎、速く読めよ」

秀吉「信長様読むのが早すぎるんで
すよ。もつとじつくり読まない」と

信長「見返すからいいの」

家康「続きが気になるのに次がない
なんてひどい！ でも我慢我

慢！」

利家「あっはっはっはおもしろ〜」

勝家「読書してるんですよ」

夏也「漫画だろ」

信長「おう、戻ったか。ゲームも熱

中しすぎると良くないからな」

夏也「死んでるだろお前ら」

SE「ストーン」

夏也「ふう……なあ信長？」

信長「ん〜」

夏也「明智光秀がもし……」

SE「ガタガタガタ」

SE「ゴゴゴゴゴ」

信長「み〜つ〜ひ〜で〜？」

夏也「なな、なんでもない！」

夏也のN「こりやだめだ」

○同（深夜）

信長「ぐが〜」

秀吉「ねね〜違〜う〜浮気じゃない〜」

家康「人気人気人気……」

利家「ぐーぐー」

勝家「ぎへへ、さあて金目のもんを

出してもらおうか」

夏也「お前ら幽霊のくせに夜に寝る

な！ それと寝言うるせえ！」

秀吉「違うく先つぽ、先つぽだけだ

く

夏也「ああ、もう」

SE「スタスタ」

SE「シャーッ」

SE「ガチャ、キイイ」

夏也「はあ、夜風が気持ちいい……

あれは……」

○同・前（夜）

足音「コツコツコツ」

夏也「光秀……さん」

光秀「あ、こんばんは」

夏也「信長ですか？」

光秀「はい、目に付いちやいましたか？」

夏也「はい」

夏也のN「完全に心霊現象だったことは黙っておこう」

光秀「うう……」

夏也のN「そういえば……」

○回想・夏也の実家

夏也母「夏也、謝っちゃいなさい」

子供夏也「やらない！」

夏也母「悪いのは夏也でしょ？」

子供夏也「でもあいつ許さないって

言ったもん！ 絶交だ！」

夏也母「後で後悔するわよ？」

子供夏也「しないもん！」

回想終わり

○元のアパート・前（夜）

夏也のN「あいつとはそれっきりだ

った……あの時、俺が謝ってれば

……」

夏也「……光秀さん」

光秀「はい」

夏也「まだ、謝りたいですか？」

○アパート・夏也の部屋（夜）

信長「ぐうう」

夏也「おい、信長、おい」

信長「んゝ」

夏也「起きろ」

信長「ふぁ……なんだよまだ夜じゃ
んか」

夏也「合わせたい人がいるんだよ」

信長「んゝ？」

光秀「お、お久しぶりです信長様」

信長「あ、どうも」

光秀「はい」

信長「ところでどういう……」

SE「ゴゴゴゴ」

信長「……光秀？」

光秀「はい」

夏也「光秀さんがー」

SE「ドドドドドド」

秀吉「うきっ？」

家康「じ、地震ですか？」

利家「ぐーぐー」

勝家「あわてず騒がず！　まずは火の元を閉じるのですぞ！」

夏也「の、信長、やめろ！」

信長「この野郎！　ぶっ殺してやる！」

光秀「の、信長様、話を……」

信長「うるさい！　絶対に許さないぞ！」

光秀「わたしは……」

信長「お前が悪いんだ！　お前なんかお前なんかずっと前からー」

信長&子供夏也「絶交だ！」

夏也「！　ふ、ふざけるなああ！」

家康「ひい」

信長「な、なんだよ急に」

夏也「せっかく仲直りできるチャン
スだろ！」

信長「するもんか！ こいつのせい
でわしは転化糖位置できなかつ
たんじゃ！」

秀吉「そしてそのおかげでわたしが
天下統一できたのですぞ」

信長「うるせえ！」

SE「ボカッ」

秀吉「うきや！」

夏也「何百年前だよ！ 仲直りし
ろ！」

信長「なにを小童め！ 知った風な
口を聞くな！」

夏也「出てけ」

信長「ん」

夏也「今すぐ出ていけ！」
間。

信長「な、なんだよいきなり」

夏也「出ていけ！ くそ！」

信長「あ、ああいいだろ！ ふん！

わからずやめ！ 謝っても遅い

かなな！」

夏也「誰が謝るか！」

秀吉「あ、信長様」

家康「どちらへ」

信長「うるさい！」

勝家「お待ちを！」

S E 「ヒュンヒュンヒュン」

利家「ぐーぐー」

光秀「夏也さん……」

夏也「一人にしてくれ」

光秀「すいません」

S E 「ヒュン」

夏也「……くそ！」

S E 「ドン」

○空き家

秀吉「信長様あ」

信長「うるさい、あっちいけ！」

秀吉「わかりましたよ」

信長「ふん、夏也め」

○アパート・夏也の部屋

夏也「すつきりしたぜ」

利家「う〜ん……あれ？ 秀吉く？」

SE「ヒュン」

夏也「……っけ」

○空き家

信長「なんだよくそ」

光秀「信長様」

信長「げっ、なんだお前！」

光秀「夏也さんは僕のためにやって

くれたんです、どうか……」

信長「うるさい！ 帰れ裏切り者」

光秀「……はい」

信長「くそくそくそ！」

○アパート・夏也の部屋

夏也のN「あれから俺は普通の日常を送った。いつも通りの……」

○大学

生徒たち「でさー」

生徒たち「まじ？」

生徒たち「あはは」

夏也のN「大学も始まって、忙しい毎日だ。もうあいつらのことなんか忘れた……そう、忘れたんだ」

○アパート・夏也の部屋

SE「ガチャ」

夏也「ただいま」

テレビ「え〜続いては」

夏也「おい、信長、ちゃんとテレビ消し……あ……」

テレビ「お便りー」

SE「プツン」

夏也「……俺が消し忘れただけか」

○空き家

利家「秀吉、信長様放つといていいの
か？」

秀吉「ああなると聞かないからなあ。

機嫌が治るの待つしかない」

家康「光秀殿は毎日通っているよう
ですね」

勝家「ああ、愚痴りたい」

○空き家

光秀「信長様」

信長「うるさい！」

光秀「……はい、すみません」

○アパート・夏也の部屋（夕）

カラス「カーカー」

夏也「……こんなにこの部屋広かつ
たかな？」

○空き家

信長「お前なんか嫌いだ！」

光秀「……そうですか」

○アパート・夏也の部屋（夜）

夏也「ふう」

光秀「夏也さん」

夏也「うお！ ……み、光秀……」

光秀「あの、聞いてもいいですか？」

夏也「な、なんだよ？」

光秀「どうして、あの時あんなにお

怒りに？」

夏也「べ、別に俺はただ信長が……」

光秀「もしかして、僕と似たような

ことがありましたか？」

夏也「う……」

光秀「なんとなく、わかるんです」

夏也「……ああ、そうだよ。俺は……」

……俺が悪いのに謝れなくて……

いや、信長とは違う、あいつは実

際にその……やられてるわけだし」

光秀「夏也さん、それでも、ありがとうございます」

夏也「え？」

光秀「誰かに僕のこと怒ってもらえるのは、久しぶりでしたから」

夏也「(沈黙)」

光秀「僕は、去ろうと思います」

夏也「え？」

光秀「……随分長い間謝ってきましたけど……許されないことも、ありますよね」

○回想・夏也の実家

子供夏也「でもあいつ許さないって

言ったもん！ 絶交だ！」

夏也母「後で後悔するわよ？」

子供夏也「しないもん！」

回想終わり

○元のアパート・夏也の部屋

夏也「……信長のところ、案内してくれないか？」

光秀「え？」

夏也「……あ、謝りたいって思ってた……さ」

光秀「わかりました」

夏也「それに、あんたもだよ」

○空き家

信長「ゲームしてえのう……」

光秀「信長様？」

信長「あ、また来たなこの野郎。何
度来たってわしは許さんぞ。天下
統一未達成の恨みは大きいんじ
ゃ」

夏也「……よう」

信長「な、なつ……な、何しに来た
んじゃ！」

夏也「その……ごめん……な？」

信長「ぬなっ」

夏也「前はその、言いすぎたし……」

信長「わ、わかればいいんじゃない？」

夏也「それと……」

光秀「信長様」

信長「あ！ また来た！ 怒るぞ！

信長怒るぞ！」

夏也「信長！」

信長「な、なんだよ……大きい声出して」

夏也「許せないのは仕方ない、けど、謝るのだけはちゃんと聞け！」

光秀「……申し訳、ございませんでした」

信長「わ、わかったよ」

光秀「信長様？」

信長「ゆ、許してないからな……だから、機嫌が良い時にしか会いに来るなよ！」

光秀「信長様……!!」

夏也のN「これで、良かったのかな

……? いや、俺も、けりつけないと

いな

○アパート・夏也の部屋

SE「ピコピコ」

信長「くそ、こんなところに隠し通

路があったとは迂闊じゃ」

利家「ほりやほりや」

秀吉「ここは落ち着きますなあ」

家康「全くです」

勝家「ひげ剃ってみましようかね…

…幽霊だから無理だった……」

夏也のN「そして、また同じ毎日が

戻った。五月蠅くて面倒くさくて

……楽しい毎日が」

夏也「ここをこうして……」

光秀「夏也さん、こっちはできまし

たよ」

夏也「ポルターガイストが組立てに役に立つとはな。ていうか、お前から少しは手伝え！」

信長「うおほ、トラップがあ！」

夏也「全く、本棚作るのも一苦労だぜ。……これが終わったら、行くか」

○アパート・前

セミ「ミンミンミンミン」

信長「早く帰って来いよ」

光秀「ファイトです」

秀吉「気合ですぞ気合！」

家康「待ってますよ」

勝家「柔らかい顔をイメージです！」

利家「あ、犬だ」

夏也「おう」

夏也のN「俺は、あいつに謝りにいく。お見送りに幽霊か……頼もしい限りじゃないか」

〈終〉